

送信先 報道各位
送信枚数 本紙を含めて 3 枚
送信日 2024 年 11 月 28 日



12 月 3 日は「世界ニホンザルの日」です！

いつも日本モンキーセンターの活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、12 月 3 日の「世界ニホンザルの日」が近づいてまいりました。今年も多くの方にニホンザルについて知っていただく機会といたく、貴メディアにてご紹介いただければ幸いです。

■「世界ニホンザルの日」とは？

1948 年 12 月 3 日に京都大学の今西錦司らが宮崎県の幸島で初めてニホンザルの調査をおこないました。日本の霊長類研究の始まりの日にちなみ、2021 年に日本モンキーセンターが中心となって呼びかけ、12 月 3 日を「世界ニホンザルの日」としました。今年で 4 年目となります。

「世界チンパンジーの日」や「国際ゴリラの日」などさまざまな記念日がありますが、「世界ニホンザルの日」は日本から世界に発信する数少ない記念日の一つです。

■意外とすごい！？ ニホンザル

ニホンザルは、ヒトを除く霊長類約 500 種の中でももっとも北に生息し、霊長類の多様性を象徴する動物です。今西錦司らが創始したニホンザルの研究は、その生態や社会の解明から医学研究への応用にいたるまで、霊長類学を発展させ多くの知見をもたらしてきました。いっぽう、絶滅が心配される地域もあれば、ヒトとの軋轢が生じている地域もあり、ヒトと野生動物の共存について考えさせてくれる存在でもあります。

このようなニホンザルの魅力を知り、関心を高め、保全や福祉について考える日とするため、「世界ニホンザルの日」には国内の動物園などでさまざまなイベントが企画されています。

■2024 年のポスター

第 1 回目となる 2021 年は日本の霊長類学が始まった地である宮崎県の幸島の写真でポスターを制作しました。2022 年は高崎山、2023 年は小豆島と、霊長類学のパイオニアたちの足跡を追うようにニホンザルの長期調査地の写真を採用し、今年 2024 年は京都の嵐山モンキーパーク いわたやまの写真をお借りして制作しました。



■関連イベント

日本モンキーセンターでは以下のイベントを予定しています。

11月30日(土) 11:00～ ミュージアムトーク「センサーカメラを使ったニホンザル調査の成功談&失敗談」

12月1日(日) 11:00～ モンキー日曜サロン「ニホンザルはコンタクトコールで何をどうやって伝えるのか？」 ※詳細は次ページの資料参照

12月1日(日) 13:00～ 飼育員と一緒におやつをつくろう！(モンキーバレイ)

12月1日(日) 時間未定 園内ガイド 世界ニホンザルの日 Ver

12月3日(火) お昼頃 オンラインガイド 世界ニホンザルの日 Ver

12月3日(火) 午後(時間未定)「生息地から生配信！嵐山のニホンザル」

12月21日(土) 冬の風物詩「たき火にあたるサル」スタート ※後日リリースいたします

12月29日(日) ガイドツアー 動物園の“裏側”から見る身近な野生動物

そのほか、日立市かみね動物園、沖縄こどもの国など、各地の動物園等でニホンザルに関するイベント等が予定されています。

詳細は「世界ニホンザルの日」の Web サイトをご覧ください。 <https://bit.ly/WJMD>

■記念グッズのイメージ

日本モンキーセンターオリジナルのニホンザルグッズを販売します。



澤田酒造(常滑市)

コラボラベル日本酒「爛猿」

新ラベルで販売再開！(800円)

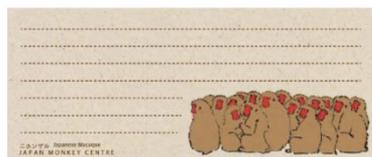


オリジナル
手ぬぐい
継続販売
(1,000円)



オリジナル筆箋

継続販売(300円)



オリジナルステッカー

販売再開！(350円)

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人日本モンキーセンター 〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

TEL:0568-61-2327 FAX:0568-62-6823 メール:info@j-monkey.jp

問い合わせ先: 赤見、江藤、高野(学術部)、 辻内(附属動物園部)

参考資料

■12/1(日)開催のモンキー日曜サロン

「ニホンザルはコンタクトコールで何をどうやって伝えるのか？」 詳細

研究者に研究内容をわかりやすく紹介していただくサロン形式のイベントです。世界ニホンザルの日に合わせ、大阪大学の勝 野吏子先生にお話しいただきます。

■日時: 2024/12/1(日) 11:00~11:45

■講師: 勝 野吏子 先生(大阪大学大学院 人間科学研究科)

■内容: サルといえば「キーキー」と鳴いているイメージがあるかもしれませんが。でもニホンザルをよく観察してみると、澄んだ声で「クー」と鳴いたり、静かな声で「グググ」と互いにやり取りしたりしています。これらの穏やかな音声はコンタクトコールと呼ばれ、集団内の個体同士で鳴き交わされます。ニホンザルはこれらの音声で、何を伝えているのでしょうか。また、相手に音声が届くように、何か工夫をしているのでしょうか。飼育、野生のニホンザルを対象として行われてきたこれまでの研究や、私自身が餌づけ集団のニホンザルを対象として行ってきた研究から、分かってきたこととお話しします。

■入園ゲートで約 100 人に聞いてみました！

世界ニホンザルの日を前に、10~11月の数日間、日本モンキーセンターの入園ゲート前で入園前の来園者に「ニホンザルからイメージする言葉」を5つ挙げてもらいました。多くの方が挙げた言葉は以下のとおりでした。

- | |
|------------------------------|
| 1位 温泉(45.8%) |
| 2位 顔(や尻)が赤い(40.6%) |
| 3位 群れ(20.8%) ※群れている、集団、なども含む |
| 4位 バナナ(17.7%) |
| 5位 かわいい(15.6%) |
| 5位 寒い/雪/最北(15.6%) |

温泉に入るニホンザルは長野県地獄谷野猿公苑の1群しか知られていませんが、「温泉」はニホンザルのイメージとして最も頻出する言葉でした。

4位の「バナナ」のほか、リンゴ、サツマイモ、焼イモなどの言葉も多く見られました。ニホンザルが本来食べているものとは異なるこのようなイメージは、動物園や野猿公苑などが与えている(与えていた)飼料によるものでしょう。

また「かわいい」が5位に入っている一方で、「凶暴」「こわい」といったネガティブな表現も8.3%ありました。ニホンザルにこのような多面的なイメージがあるのは、私たちにとって身近な動物だからこそ、さまざまな関わり方があるためだと考えられます。